

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容実習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	美容実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	45
使用教材	美容師国家試験第1課題、第2課題教材一式改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験第1課題、第2課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上がりのペースを理解して。身に着ける。				
到達目標	美容師国家試験第1課題、第2課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 提出物20% 授業態度10%				
認定条件	出席が総時間数の5分4以上ある者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施				
担当教員	浅山翔悟 他16名	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、人材育成にも従事。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認（道具名称・扱い方・管理方法）、机上セッティング、ウィッグの取り扱い、コームワーク、縦スライス、横スライス、二重ゴム、分け取り、姿勢、体の使い方、構成習得、国家試験衛生
2	ワインディング	コームワーク、縦スライス、横スライス、二重ゴム、分け取り、ブロッキング構成習得、復習強化、姿勢、体の使い方、ブロッキング計測15分
3	ワインディング	ブロッキング構成習得、復習、強化、ブロッキング計測15分～13分、センター導入 上巻き導入、姿勢・体の使い方・目線・立ち位置
4	ワインディング	ブロッキング構成、計測13分～10分、センター導入、上巻き復習・下巻き導入
5	ワインディング	ブロッキング構成、計測10分、上巻き、下巻き、センター巻き、復習、強化
6	ワインディング まとめ	ブロッキングまとめを実施する 計測10分、コームで取るブロッキング（12ブロック）導入 計測15～13分、センター強化、（センター15分）計測1本60秒、フロント導入、構成

7	ワインディング	ブロッキング（コーム、12ブロック）計測10分、センター強化、（センター15分）計測1本60秒 フロント復習、強化、右バックサイド～ネープ導入
8	ワインディング	ブロッキング（コーム、12ブロック）計測10～8分、センター強化、（計測センター12分～13分）計測1本約50秒、フロント、右バックサイド復習、強化、右サイド導入
9	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測8～6分、（センター計測11分～12分）計測1本約45秒、フロント、両バックサイド～ネープ復習、強化、サイド復習
10	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測6～5分、（センター計測10分～11分）計測1本約40秒、フロント、両バックサイド～ネープ強化、サイド復習
11	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測5～4分、（センター計測10分～11分）計測1本約40秒、フロント、右サイド復習、左バックサイド～ネープ導入
12	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測4～3分、（センター計測9分～10分）計測1本約35秒 フロント、右サイド復習、左バックサイド～ネープ復習、サイド導入
13	ワインディング	ブロッキング（コーム、9ブロック）計測4～3分、（センター計測9分～10分）計測1本約35秒全頭復習、左サイド復習、強化
14	ワインディング 総まとめ	ワインディング総まとめを実施する 計測ブロッキング（コーム、9ブロック）4分 全頭巻き35分
15	総合授業	前期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識Ⅰ-A		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識Ⅰ-A		
開講			単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容科(3年制)	2	30
使用教材	美容技術理論1教科書 美容カウンセリング	出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター		

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	○美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。 ○美容カウンセリングにおいての正しい知識を身につける。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	遠藤 広美	実務経験	○		
実務内容	美容師として現場で勤務後、専門学校での講師歴、17年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション <序章 美容技術理論を学ぶにあたって>	※美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れを説明 ・美容理論について・美容技術者としての心構え・安定した姿勢、作業点と姿勢 ・作業点と姿勢 ・力の配分と姿勢 ・人体各部の名称 ・美容における頭部の区分
2	<第1章 美容用具> 1. 美容技術における用具 2. コーム	・美容の道具、器具、機械、取り扱い方 ・コームの種類と各部の名称、選定法、手入れ法・ブラシの種類、選定法と手入れ法
3	<第1章 美容用具> 4. シザーズ 5. レザー	・シザーズの種類、各部の名称、選定法と手入れ法 ・レザーの種類と各部の名称、刃線の形態と力のかかり方、選定法と手入れ法・ヘアピンのいろいろ
4	<第1章 美容用具> 8. ローラー 9. ヘアアイロン 10. ヘアドライヤー 11. ヘアスチー	・ロッドの種類 いろいろな太さのローラー ・ホットカーラー（ローラー）・ヘアアイロンの種類、各部の名称、選定法と手入れ法 ・ヘアドライヤーの種類と構造 ・タービネードタイプドライヤーの構造
5	<第2章 シャンプーイング> 1. シャンプーイング総論 2. サイドシャンプー	・シャンプー剤の成分、種類・シャンプーイングの際の注意・シャンプー技術のプロセス ・ブラッシング・ファースト、セカンドシャンプー・バックシャンプーの手順、指の動き
6	<第2章 シャンプーイング> 4. リンス、コンディショナー・トリートメント	・リンスの目的、種類、技術・コンディショナーの目的 ・ヘアトリートメントの目的、種類技術の一例
7	<第2章 シャンプーイング> 5. スカルプトリートメント 6. ヘッドスパ	・スカルプトリートメントの目的、要素、種類・頭皮のトラブルのいろいろ ・育毛剤の成分とはたらき・ノーマルスカルプトリートメント技術の一例 ・スカルプマッサージ技術の目的と手順

8	<第3章 ヘアデザイン> 1. 美容とデザイン	・錯覚現象を美容に生かそう・デザインの要素
9	<第3章 ヘアデザイン> 1. 美容とデザイン	・デザインの原理
10	<第4章 ヘアカット> 1. ヘアカットとは 2. シザーズとレザーの扱い方	・シザーズ、レザーの持ち方等・刃物の材質、材料
11	<第4章 ヘアカット> 4. ヘアカットの正しい姿勢 5. ブロッキング	・正しい姿勢の基本 ・頭部の基礎分割線・基準となる頭部のポイント
12	<第4章 ヘアカット> 6. ヘアカットの基礎理論 7. ベーシックなカット技法	スライスの種類・パネルと頭皮の角度・毛先が集まる位置とカットラインの関係 ・パネルの幅や長さやカットラインの関係・パネルの角度とシルエットの関係・ラインの設定法 ・ワンレングスカット・グラデーションカット・レイヤーカット・セイルレングスカット
13	<第5章 パーマネントウェービング> 1. パーマネントウェーブの歴史と現在 2. パーマネントウェーブの理論	・パーマネントウェーブをはじめとする美容関係の歴史・毛髪の構造について ・ウェーブが形成される仕組み・パーマ剤の分類、種類
14	<第5章 パーマネントウェービング> 4. パーマ剤に関する注意事項 5. パーマネントウェーブ技術	・使用前、操作中に関する注意事項 ～ スタイリング
15	<第5章 パーマネントウェービング> 6. ワインディングのバリエーション 7. 縮毛矯正(高温整髪用アイロン使用)	・ワインディングにおける応用I～カウンセリング(プレーン&仕上げ)
16	<第6章 ヘアセット> 1. ヘアカットとは 2. ヘアパーティング	・オリジナルセットの基本的な要 ～ ストランドシェーブ、フィンガーウェーブ時の持ち方
17	<第6章 ヘアセット> 3. ヘアシェーピング 4. ヘアカーリング	・オリジナルセットの基本的な要 ～ ストランドシェーブ、フィンガーウェーブ時の持ち方 ・カール各部の名称、分類 ～ クロックノールカール技術の一例
18	<第6章 ヘアセット> 5. ヘアウェーブ 6. ローラーカーリング	・ヘアウェーブの名称、分類 ～ ローラーウェーブ
19	<第6章 ヘアセット> 7. ブロードライ 8. アイロンセット	・ハンドドライヤーとブラシの基本操作・アイロンの持ち方
20	<第6章 ヘアセット> 9. バックコーミング 10. アップスタイル 11. ウィッグとヘアピース	・ウィッグ、ヘアピース手入れ法
21	<第7章 ヘアカラーリング> 1. ヘアカラーリング概要 2. ヘアカラーの種類 3. ヘアカラーのタイプ別特徴	・ヘアカラーリングの歴史、種類 ～ タイプ別染毛メカニズム
22	<第7章 ヘアカラーリング> 4. 染毛のメカニズム 5. 色の基本	・ヘアカラーの色選び
23	<第7章 ヘアカラーリング> 6. 毛髪のレベルとアンダートーン 7. パッチテスト	～アンダートーン ・染毛剤と皮膚炎 ～ ・ヘアカラーリング専用の施術道具 ・パッチテスト
24	8. 染毛剤使用時の注意 9. ヘアカラーリングの道具	・ヘアカラーリング専用の施術道具
25	<第7章 ヘアカラーリング> 10. 酸化染毛剤の技術手順 11. 酸性染毛剤の技術手順	・カラーの主義
26	第1章 カウンセリング概論 1. カウンセリングとは 2. カウンセリングの手法	・カウンセリングとは ・カウンセリング内容をクライアントの欲求で分ける ・コンサルティングとは
27	第1章 カウンセリング概論 3. カウンセリングに必要な基礎知識	・個人情報の保護 ・心の仕組みと動き ・コミュニケーションとストレスの関係
28	第1章 カウンセリング概論 4. カウンセリングの訓練 5. 職場の精神衛生管理	・ロールプレイングによる傾聴訓練 ・エンカウンターグループ ・スキルアップ訓練 ・職場で起こるトラブル対応の訓練
29	第2章 毛髪・皮膚コンサルティング 1. サロンでのコンサルティングの意義 2. 毛髪診断	・サロンでのコンサルティングの必要性 ・コンサルティングを正しく行うために ・コンサルティングを行う際の態度 ・サロンの繁栄のためのコンサルティング ・機器診断と触診

30	<p>第2章 毛髪・皮膚コンサルティング</p> <p>3 パーマ施術前のコンサルティング</p> <p>4 ヘアカラー施術前のコンサルティング</p> <p>5 その他の施術前のコンサルティング</p> <p>6 コンサルティングのその他の知識</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・希望の確認 ・断毛と脱毛 ・頭皮の確認 ・薬液の選定と施術料の提示 ・ヘアカラー製品の選定 ・酸化染毛剤（ヘアカラー）のパッチテスト ・パッチテストで異常を生じた際の対応と染毛料の使用 ・染め上がりの色と退色 ・染毛剤（医薬部外品）の使用上の注意について ・化粧品、医薬部外品についての正しい知識 ・毛髪の傷みの原因について ・化粧品の使用上の注意と使用方法 ・ヘンナ（ヘナ）製品 ・ヘアスタイリング剤
----	---	---

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識 I -B		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識 I -B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	文化論教科書(自作資料) ヘアスタイル画によるトータルファッション		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「文化論」の正しい知識を身につける。ヘアスタイル画によるトータルファッションにおいての正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。 全身のプロポーションとともにコスチュームや小物の描き方を学び、トータルファッションの提案が出来るようになる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松枝 裕子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章 総論 第2章 日本の理容業・美容業の歴史	1 総論P5~8 1 理容業・美容業の発生 2 江戸時代の理容業・美容業 3 近代の理容業・美容業 4 現代の理容業・美容業 P9~24
2	第3章 ファッション文化史 日本編	1 縄文・弥生・古墳時代 2 古代(飛鳥・奈良・平安時代) P34~48
3		3 中世(平安末・室町・鎌倉・戦国時代) 4 近世Ⅰ(戦国末・安土桃山時代) P49~58
4		5 近世Ⅱ(江戸時代) P59~73
5		6 近代(明治・大正・昭和20年まで) P74~88
6		7 現代(1945年~1950年代) 8 現代(1960年代~1970年代) P89~94
7		9 現代(1980年代~1990年代) 10 現代(2000年代以降) P95~111

8	第4章 ファッション文化史 西洋編	1 古代エジプト 2 古代ギリシャ・ローマ 3 古代ゲルマン 4 中世ヨーロッパ 5 近世 (16世紀) 6 近世 (17世紀) 7 近世 (18世紀) P119~140
9		8 近代 (18世紀末~19世紀初め) 9 近代 (19世紀) 10 現代 (1910年代~1920年代) 11 現代 (1930年代~1940年代前半) 12 現代 (1940年代後半~1950年代) P141~162
10	第5章 礼装の種類	13 現代IV (1960年代) 14 現代V (1970年代) 15 現代VI (1980年代) 16 現代7 (1990年代~2010年) 1 和装の礼装 2 洋装の礼装 P163~188
11	ベーシックドローイング	1 鉛筆の削り方について 2 顔のプロポーションについて 3 顔の部分練習について 4 顔の描き方
12	ベーシックドローイング	5 角度の変化による髪型について 6 ヘアの描き方について
13	ベーシックドローイング	7 いろいろな描き方を学ぶ 8 顔の部分練習応用編について 9 配色によるイメージの違いを学ぶ 10 ヘアスタイルによるイメージの違いを学ぶ 11 同じ顔でイメージを変えることを学ぶ
14	実践ドローイング	1 基礎プロポーションについて 2 プロポーションの理解について
15	デザイン画	1 ファッションイラストの描き方を学ぶ 2 ファッショングッズの描き方を学ぶ

シラバス					
科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	基礎知識Ⅰ-C		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識Ⅰ-C		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	2	30
使用教材	関係法規・制度1教科書 運営管理		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	国家試験に必要な美容師としての遵守事項と行政による指導監督制度についての知識を習得する。 美容師国家試験筆記試験課題の「運営管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容業に関する法令・行政機関や美容師法の目的、美容師法による「人（美容師）に関する規定」について理解を深め、美容師国家試験筆記試験「関係法規・制度」の合格基準を満たすことができる美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	檜原 亜希子		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	イントロダクション 第1章 法制度の概要第1節 第2節	美容師免許取得までの流れ、国家試験における関係法規の出題数や傾向の説明社会における法の役割 日本の法令体系			
2	第1章 法制度の概要第3節 第4節	衛生法規の仕組み美容師法と附属法令			
3	第2章 衛生行政の概要第1節 ～ 第3節	衛生行政を担う行政機関・保健所の役割			
4	第3章 理容師法・美容師法 第1節	「美容師法」の目的			

5	第3章 理容師法・美容師法 第2節	「美容師法」で用いられる用語の定義
6	第3章 理容師法・美容師法 第3節	美容師免許取得までの過程
7	第3章 理容師法・美容師法 第3節	美容師に求められる義務
8	第3章 理容師法・美容師法 第3節	免許の変更等があったときの手続き
9	第3章 理容師法・美容師法 第3節	管理美容師
10	まとめ	まとめを実施する
11	第1編 経営の視点 第1章 経営とは・経営者とは	経営とは、経営者とは 経営資源・経営戦略とは
12	第2章 理容業・美容業の経営について	理美容業界の現状・動向について
13	第3章 資金の管理	資金管理の重要性について
14	第2編 人という資源 従業員としての視点	人という資源について 労務管理の労働関係法規
15	第2章 健康・安全な職場環境の実現	健康管理の基礎について

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識Ⅰ-D		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識Ⅰ-D		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	衛生管理 1		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	辻 幸恵	実務経験	○		
実務内容	看護師6年、循環器内科&美容皮膚科3年、現在美容医療クリニック・フェムケア外来勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れ 筆記試験の問題形式・問題数・問題傾向の説明 「公衆衛生の意義と課題」「公衆衛生発展の歴史」「理容師・美容師と公衆衛生」
2	1編 公衆衛生 2章 保健①	「母子保健」「成人・高齢者保健」①

3	1編 公衆衛生 2章 保健②	「成人・高齢者保健」②
4	1編 公衆衛生 2章 保健③	「成人・高齢者保健」③
5	1編 公衆衛生 2章 保健④	「成人・高齢者保健」④ 「精神保健」
6	1編のまとめ	1編「公衆衛生」の振り返り
7	2編 環境衛生 1章 環境衛生①	「環境衛生の概要」「空気環境」
8	2編 環境衛生 1章 環境衛生②	「衣服・住居の衛生」
9	2編 環境衛生 1章 環境衛生③	「上下水道と廃棄物」
10	2編 環境衛生 1章 環境衛生④	「衛生害虫とネズミ」「環境保全」
11	2編のまとめ	2編「環境衛生」の振り返り
12	3編 感染症 1章 感染症の総論①	「人と感染症」
13	3編 感染症 1章 感染症の総論②	「病原微生物」「感染症の予防」
14	3編 感染症 1章 感染症の総論まとめ	3編1章「感染症総論」の振り返り
15	総まとめ	これまでの振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識 I - E		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識 I - E		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	化粧品化学 I		出版社	公益社団法人 日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容分野において多様される「化粧品」について、原料や配合など化学的側面からその成り立ちを理解し、特性を知った上で安全な取扱いができるようにする。パーマやカラーなどの美容技術の仕組みを化学事象として捉える観点を養う。				
到達目標	化学の基礎知識を習得し、化粧品を適切に扱うために応用できる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	衛生管理、美容保健、美容技術理論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	海井美紀	実務経験	○		
実務内容	美容実務40年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1編 化粧品総論 第1章：化粧品総論	初回オリエンテーション 化粧品とは、化粧品と造形、化粧品の効果と使用プロセス
2	第2章：化粧品を使用する際に気をつけるべきこと	化粧品の使用による症状、化粧品の定義と法規制、化粧品の安全性と安定性
3	第3章：化粧品の成り立ち 「化粧品の成り立ち」 「水と親水性溶媒」	化粧品の成り立ち、水と親水性溶媒（溶質と溶媒、有機・無機化合物、アルコールの種類と特徴のまとめ）
4	第3章：化粧品の成り立ち 「油性原料」	油性原料の種類（油脂、ロウ類、炭化水素、その他油性原料）、油性原料の機能

5	第3章：香粧品の成り立ち 「界面活性剤」	界面活性剤の基本構造と作用、種類（陰イオン・陽イオン・両性・非イオン）、香粧品への応用
6	第1編まとめ①・小テスト [1]	1～5回までの総復習および小テスト
7	第3章：香粧品の成り立ち 「高分子化合物」「香料」	高分子化合物（天然・半合成・合成）と香粧品への応用、香料の種類
8	第3章：香粧品の成り立ち 「色材」	発色の原理、色材の種類（無機顔料・タール色素・光輝性顔料・天然色素）
9	第3章：香粧品の成り立ち 「製品を安定させる配合原料」	配合原料の種類（防腐剤・殺菌剤・酸化防止剤・金属イオン封鎖剤）
10	第3章：香粧品の成り立ち 「その他の機能的配合原料」	配合原料の種類（保湿剤・紫外線吸収剤・収れん剤・その他）
11	第3章：香粧品の成り立ち 「雑貨原料」 第1編まとめ②・小テスト	合成樹脂（重合と高分子）、接着剤、塗料、 7～10回までの総復習および小テスト
12	第1編まとめ総合およびテスト	第1編香粧品総論の総復習およびテスト
13	第2編 香粧品各論 第1章：スキンケア製品①	香粧品の効果と使用プロセス、クレンジング用香粧品（化粧水・オイル・石けん等）
14	第1章：スキンケア製品②	コンディショニング用香粧品（化粧水・クリーム・乳液）
15	第1章：スキンケア製品③	トリートメント用香粧品（機能性化粧水・美容液）、スキンケア製品

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	基礎知識 I - F		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎知識 I - F		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	保健 1		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「保健」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	辻 幸恵	実務経験		○	
実務内容	看護師6年、循環器内科&美容皮膚科3年、現在美容医療クリニック・フェムケア外来勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	1項 人体各部の名称
2	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	2項 頭部、顔部、頸部の体表解剖学
3	第1章/頭部、顔部、頸部の体表解剖学	まとめ:単元テストと4択問題
4	第2章/骨格器系	1項 骨の種類と構造 2項 骨の連結
5	第2章/骨格器系	3項 骨格器系とそのはたらき
6	第2章/骨格器系	まとめ:単元テストと4択問題
7	第3章/筋系	1項 筋の種類とその特徴 2項 主な骨格筋とそのはたらき

8	第3章/筋系	3項 表情筋と表情運動
9	第3章/筋系	まとめ:単元テストと4択問題
10	第4章/神経系	1項 神経系の成り立ち
11	第4章/神経系	2項 中枢神経とそのはたらき 3項 末梢神経とそのはたらき
12	第4章/神経系	まとめ:単元テストと4択問題
13	第5章/感覚器系	1~3 項 視覚・聴覚・平衡感覚
14	第5章/感覚器系	4~6 項 味覚・嗅覚・皮膚感覚
15	第5章/感覚器系	まとめ:単元テストと4択問題

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容技術Ⅰ-A		
必修選択	選択	(学則表記)	美容技術Ⅰ-A		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	45
使用教材	美容技術理論Ⅰ カラー教材一式		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	カラーリングの注意点や理論、基本的な塗布を覚える				
到達目標	カラーリングの基礎技術を習得する				
評価基準	総まとめ50% まとめ30% 授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	浅山翔悟 他16名	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、人材育成や技術全般に従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【カラー】

回数	単元	内容
1	カラーリング	自己紹介、授業ルール、ブッキング、カラー理論
2	カラーリング	リタッチ
3	カラーリング	ワンタッチ
4	カラーリング	リタッチ②
5	カラーリング	ブリーチリタッチ
6	カラーリング	ホイルワーク (スライシング)
7	カラーリング	ホイルワーク (ウィーピング)
8	カラーリング	ホイルワーク (ウィーピング) ②
9	カラーリング	ホイルワーク (ウィーピング・スライシング)
10	カラーリング	ホイルワークテスト
11	カラーリング	ヘアマニキュア
12	カラーリング	ヘアマニキュア
13	オンデマンド	復習
14	カラーリング	総合技術
15	カラーリング	総合技術

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容技術Ⅰ-B		
必修選択	選択	(学則表記)	美容技術Ⅰ-B		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	45
使用教材	ワインディング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説、三幸学園オリジナル実技マニュアル VR ヘアアレンジ一式、ヘアアレンジテキスト (デジタルテキスト)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	【ワインディング】美容師国家試験第2課題ワインディング技術を試験時間内に巻くことができ、国家試験レベルの技術を習得する				
到達目標	【ワインディング】美容師国家試験第2課題ワインディング技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す				
評価基準	各校フリー：総まとめ50% まとめ30% 授業態度20%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	浅山翔悟 他16名	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、人材育成や技術全般に従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【フリー】

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	この授業の目的、評価基準、マナールール説明、教材確認(扱い方、管理方法) 前期復習 計測35分～32分
2	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測32分～30分 全頭の構成の強化
3	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測30分～28分 全頭の構成の強化
4	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測28分～26分 全頭の構成の強化
5	ワインディング	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測28分～26分 全頭の構成の強化
6	ワインディング まとめ	ブロッキング3ブロック1分、全頭巻き計測28分 まとめを実施する ブロッキング込み全頭 (計測28分) 全頭の構成の強化
7	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測26分) 全頭の構成の強化
8	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測25分) 全頭の構成の強化

9	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測 2 4 分) 全体構成の強化
10	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測 2 3 分) 全体構成の強化
11	ワインディング	ブロッキング込み全頭 (計測 2 2 分) 全体構成の強化
12	ワインディング	ブロッキング込み 全頭 (計測 : 2 1 分)
13	ワインディング	総まとめを実施する (全頭計測 : 2 1 分)
14	ワインディング 総まとめ	ブロッキング込み全頭 (計測 2 1 分)
15	総合授業	後期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容技術Ⅰ-C		
必修選択	選択	(学則表記)	美容技術Ⅰ-C		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	45
使用教材	カッティング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説・ドライヤー・デンマンブラシ		出版社	公益財団法人理容師美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ワンレングスカット・レイヤーカット・グラデーションカットの技術の基礎を理解する				
到達目標	ワンレングスカット・レイヤーカット・グラデーションカットの基礎技術を習得する				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 提出物20% 授業態度10%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	【国家試験カット】美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	浅山翔悟 他16名	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、人材育成や技術全般に従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【国家試験カット】

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認(道具名称・扱い方・管理方法)机上セッティング 道具の扱い方、シザー持ち方開閉、コムワーク、立ち位置、姿勢
2	ワンレングスカット	道具の扱い方、姿勢、立ち位置、ブロッキング、スライスの取り方、シザーの開閉、シェービング仕方、止め方 ワンレングスカット、ブロッキングの仕方
3	ワンレングスカット	基本動作(姿勢・コムの使い方・留め方)の確認・復習 前下がりがり
4	ワンレングスカット	基本動作(姿勢・コムの使い方・留め方)の確認・復習 水平
5	ワンレングスカット	基本動作(姿勢・コムの使い方・留め方)の確認・復習 前あがり
6	ワンレングスカット まとめ	まとめを行うテストを行う

7	ワンレングスブロー	ブローの理論・装具の使い方
8	ワンレングスブロー	ワンレングスブロー
9	ワンレングスブロー	ワンレングスブロー
10	グラデーションカット	グラデーションの理論
11	グラデーションカット	グラデーションカット (板45度)
12	グラデーションカット	グラデーションカット (板45度) ・ブロー
13	グラデーションカット	グラデーションブロー
14	総まとめ	総まとめを実施する
15	総合授業	前期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	美容技術Ⅰ-D		
必修選択	選択	(学則表記)	美容技術Ⅰ-D		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	45
使用教材	カッティング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説		出版社	公益財団法人美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ワンレングスカット・レイヤーカット・グラデーションカットの技術・ブローの基礎を理解する				
到達目標	ワンレングスカット・レイヤーカット・グラデーションカット・ブローの基礎技術を習得する				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 提出物20% 授業態度10%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	【国家試験カット】美容技術理論Ⅰ・美容実習Ⅰ-C				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	浅山翔悟 他16名	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務し、人材育成や技術全般に従事				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【国家試験カット】

回数	単元	内容
1	新入生オリエンテーション	授業目的、評価基準、授業ルール説明、教材確認（道具名称・扱い方・管理方法）机上セッティング 道具の扱い方、シザー持ち方開閉、コムワーク、立ち位置、姿勢
2	レイヤーカット	レイヤーカットの理論
3	レイヤーカット	フロントレイヤー
4	レイヤーカット	トップレイヤー
5	レイヤーカット	セイムレイヤー
6	ワンレングスカット まとめ	まとめを行うテストを行う
7	レイヤーカット	ラウンドレイヤー

8	レイヤーカット	ラウンドレイヤー
9	レイヤーカット	レイヤーカット・レイヤーブロー
10	レイヤーカット	レイヤーカット・レイヤーブロー
11	ショートレイヤー	ショートレイヤー
12	ショートレイヤーレイヤー	ショートレイヤー・ブローセット
13	ショートレイヤー	ショートレイヤー・ブローセット
14	総まとめ	総まとめを実施する
15	総合授業	前期振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	ノート・筆記用具		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	適切な美容を行うために人体の保健と皮膚科学を解剖学的ならびに生理学的に理解し、「美容実習」および「美容の物理化学」と関連させながら知識の習得する。				
到達目標	希望する企業に内定をいただき、社会人としての自覚を持つ				
評価基準	テスト：50% 授業態度：50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	目標設定 今後のスケジュール	面談アンケート実施 前期目標設定
2	学生と社会人の違い	就職対策の授業説明
3	電話のかけ方・メールの指導	電話・メール・SNSについてこれまでの使い方と社会人の使い方の違い
4	美容業界を知る	美容業界の仕事説明 美容師/カラーリスト/アイリスト/ブライダルヘアメイク/ネイリスト
5	企業情報リサーチ①	プレリサーチの仕方説明 有名店を例に説明(有名店・大手・個人店の違い) その後、宿題にて1社有名店を調べる
6	企業情報リサーチ②	プレリサーチ 大手を例に説明 その後、宿題にて1社大手を調べる
7	企業情報リサーチ③	プレリサーチ アイリストを例に説明 その後、宿題にて1社を調べる
8	テスト①	中間テスト (学生と社会人の違い、グループディスカッション、ヘアメイクの仕事、プレリサーチ)の中から出題
9	自己分析	テスト返却…解説 自己分析シートを使用し自分を知ろう

10	目標と計画	自己分析を踏まえて 目標設定、計画の見直し中間振り返り
11	就職先提出物	履歴書以外の提出物について説明 作成の仕方、作り方、ポイントなど
12	サロン見学	サロン見学、お客さんとしていく場合の注意点 服装、話す内容など 夏休み1サロンお客さんとして施術を受けるサロン選択宿題
13	働く上での チームワーク	募集要項に書いてあることの意味を知る チームワークの説明
14	テスト②	前期テスト 夏休みの宿題①（思い出写真） 夏休みの宿題②（サロン施術報告書）
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	ノート・筆記用具		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	適切な美容を行うために人体の保健と皮膚科学を解剖学的ならびに生理学的に理解し、「美容実習」および「美容の物理化学」と関連させながら知識の習得する。				
到達目標	希望する企業に内定をいただき、社会人としての自覚を持つ				
評価基準	テスト：50% 授業態度：50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	目標設定 今後のスケジュール	面談アンケート実施 後期目標設定
2	学外実習①	学外実習の説明(決め方・アポイントの撮り方など)
3	学外実習②	学外実習の説明(決め方・アポイントの撮り方など)
4	学外実習③	学外実習に必要な書類記入
5	学外実習④	学外実習に必要な書類記入
6	就職に向けての意識付け①	就職未決定者：就職スケジュールを立てる 就職決定者：入社するにあたり、残りの学校生活をどのように送るのかの目標を立てる
7	就職に向けての意識付け②	就職未決定者：就職スケジュールを立てる 就職決定者：入社するにあたり、残りの学校生活をどのように送るのかの目標を立てる
8	履歴書の書き方①	履歴書の基本情報(左側・資格情報)を記入する
9	履歴書の書き方②	自己PRを考える

10	履歴書の書き方③	自己PRを考える
11	学外実習④	学外実習の詳細確認
12	履歴書の書き方④	志望動機を考える
13	履歴書の書き方⑤	志望動機を仕上げる
14	テスト	履歴書作成
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアデザインⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアデザインⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	筆記用具	出版社	なし		

科目の基礎情報②

授業のねらい	自己成長と社会適応力を高め、充実した社会人へ向けての準備をする。				
到達目標	自己の人生をコントロールする方法を理解することができる。 健全な人間関係構築のための考え方を身につけることができる。				
評価基準	授業態度：30% レポート・課題など（提出物）：70%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	就職対策Ⅰ・Ⅱ / キャリアデザイン				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	キャリアデザインの授業とは
2	キャリアとは何か？	キャリアの定義・おもてなしの心について
3	自己理解①：価値観	自分が大切にしていることを探るワーク
4	自己理解②：興味と関心	興味の傾向を知る
5	自己理解③：強みとスキル	自分の強み・得意なことの整理（ストレングスワーク）
6	社会の在り方を考える	エレベーターで学ぶ上座・下座、マナーについて
7	ライフラインチャート作成	自分のこれまでの人生を視覚化し、転機を振り返る
8	モチベーショングラフ	自己のモチベーションの変化と要因を知る

9	パーソナル・ビジョンの作成①	5年後・10年後の理想の姿を描く（ビジョンマップ）
10	自己理解④：弱みと向き合う	自分の弱み理解と対処方法を前向きに考える
11	自己理解⑤：他人との付き合い方	ワークコンピテンスで求められる人財育成
12	レジリエンスとキャリア	困難を乗り越える力の育成とストレスマネジメント
13	多様な働き方に触れる	ワーケーション、海外就職、NPOなど多様な事例紹介
14	前期まとめワークショップ	自己理解をもとにしたキャリアプラン作成
15	発表&フィードバック	グループ発表・相互フィードバック・振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	キャリアデザインⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアデザインⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	筆記用具	出版社	なし		

科目の基礎情報②

授業のねらい	自己成長と社会適応力を高め、充実した社会人へ向けての準備をする。				
到達目標	自己の人生をコントロールする方法を理解することができる。 健全な人間関係構築のための考え方を身につけることができる。				
評価基準	授業態度：30% レポート・課題など（提出物）：70%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	就職対策Ⅰ・Ⅱ / キャリアデザイン				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期振り返り 後期オリエンテーション	前期の振り返り 後期実施内容について
2	業界研究の方法	企業分析・業界の選び方の基本
3	自己PRとエントリーシート	書き方のコツと実践ワーク
4	面接の基礎と模擬面接①	面接マナー、よくある質問と対策
5	面接の基礎と模擬面接②	模擬面接ロールプレイとフィードバック
6	インターンシップの活かし方	目的意識・振り返り方法と将来への活用
7	キャリアとグローバル視点	海外での働き方・異文化理解と対応力
8	キャリアとテクノロジー	AI時代に求められるスキルと対応力

9	ワークライフバランス	働き方と生活のバランス、将来設計
10	キャリアとお金	生涯賃金、資産形成、年金などの基礎知識
11	キャリアと人的ネットワーク	人脈形成、メンターとの関係性の築き方
12	パーソナル・ビジョンの作成②	後期の学びを統合した未来像の再設計
13	キャリアポートフォリオ作成①	履歴書、職務経歴書の作成と個人ブランディング
14	キャリアポートフォリオ作成②	プレゼン資料の作成・準備
15	最終発表会	キャリアデザイン最終発表&フィードバック

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	メイクアップ演習Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	メイクアップ演習Ⅰ		
開講					
年次	1年	学科	美容科(3年制)	単位数	2
時間数					45
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック (デジタルテキスト)		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。				
到達目標	スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。				
評価基準	テスト50%、提出物30% 授業意欲20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック(後期)				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石堂 津多江	実務経験	○		
実務内容	メーカーで美容部員として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 教材確認(名称、使い方、管理(セッティング)方法)
2	スキンケア	スキンケア(手順)、反復練習
3	スキンケア/ベースメイク	スキンケア復習、 ベースメイク(手順)
4	スキンケア/ベースメイク	スキンケアテスト10分 ファンデーション(手順の復習、質感・多色塗り)
5	ベースメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ)、ベースメイクの振り返り
6	ベースメイク/ポイントメイク	ベースメイク(手順の復習とタイムアップ) ポイントメイク(アイシャドウ)
7	セルフメイク	セルフメイク
8	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)

9	ポイントメイク	ポイントメイク(アイメイク、アイブロウ)
10	ポイントメイク	ポイントメイク(リップ、チーク、ハイ&ローライト)
11	フルメイク	ベースメイクから、全てのポイントメイクを行う
12	フルメイク	フルメイクテスト35分×2、ベーシックテクニックの振り返り
13	ソフト	フルメイク(ソフト)
14	シャープ	フルメイク(シャープ)
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	メイクアップ演習Ⅱ			
必修選択	選択	(学則表記)	メイクアップ演習Ⅱ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	2	45	
使用教材	メイク道具一式 メイクアップテキストベーシック (デジタルテキスト)		出版社	なし		

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケアからフルメイクまでのメイクの技術を習得し現場を意識して実践できるようになる。				
到達目標	スキンケアからフルメイクまでの技術と理論を理解する。 人にメイクが出来るようになる。				
評価基準	テスト50%、提出物30% 授業意欲20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	メイクアップ検定ベーシック(後期)				
関連科目	メイクアップ演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石堂 津多江	実務経験		○	
実務内容	メーカーで美容部員として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	フルメイク/座学	検定試験に向けて試験概要の伝達 フルメイク(ソフト)
2	フルメイク/座学	フルメイク(ソフト) 座学(問題集にて検定対策を行う)
3	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
4	フルメイク/座学	フルメイク(シャープ) 座学(問題集にて検定対策を行う)
5	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
6	フルメイク/座学	フルメイク(モデルの顔に合うもの) 座学(問題集にて検定対策を行う)
7	プレ検定	スキンケア10分・フルメイク35分行う テスト扱いとする
8	苦手克服	フルメイク(苦手な場所を意識的に行う) 座学(検定筆記対策を行う) アドヴァンス検定 (任意受験) 対策

9	プロポーション	プロポーションについて導入、実践 アドヴァンス検定（任意受験）対策
10	錯覚	錯覚について導入、実践 アドヴァンス検定（任意受験）対策
11	色、質感	色、質感について導入、実践 アドヴァンス検定（任意受験）対策
12	色、質感	色、質感について導入、実践 アドヴァンス検定（任意受験）対策
13	フルメイク	フルメイクまとめテスト アドヴァンス検定（任意受験）対策
14	フルメイク	フルメイクまとめテスト／振り返り アドヴァンス検定（任意受験）対策
15	総合授業	まとめを行う アドヴァンス検定（任意受験）対策

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ヘアアレンジ・スタイリングⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアアレンジ・スタイリングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	2	45
使用教材	ヘアアレンジ道具一式 ヘアアレンジテキスト		出版社	公益財団法人理容師美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	【ヘアアレンジ】頭部の名称からヘアアレンジの基礎技術・現場での基礎技術を出来る様にする				
到達目標	【ヘアアレンジ】ブラッシング・ピンギのヘアアレンジの基本テクニックを理解する。 編み込みやコテの使用等のヘアアレンジが出来る様になる。就職活動に必要なセルフテクニックを知る。				
評価基準	・ヘアアレンジ：テスト40% 小テスト30% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格(実技)				
関連科目	【ヘアアレンジ】美容実習Ⅰ・美容技術理論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	篠原朱美 他1名	実務経験	○		
実務内容	美容師として、トータルサロン・結婚式場での勤務有。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【ヘアアレンジ】

回数	単元	内容
1	オリエンテーション、道具の使い方、頭部のポイント、コーム・ブラッシング	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認、基礎知識、頭部名称
2	ブロッキング、ゴム結い(一束結い)、ピンギ	ブロッキング、ポニーテール導入
3	三つ編み・編み込み	ポニーテール反復練習 三つ編み・編み込み導入&練習
4	片編み込み・フィッシュボーン	片編み込み・フィッシュボーン導入&練習
5	ポニーテールテスト スタイル作り①	ポニーテールテスト、振り返り 学んだテクニックを使いスタイルを作る
6	スタイル作り②	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
7	ヘアアイロン	アイロン導入

8	ヘアアイロン	アイロン反復練習
9	ホットカーラー	ホットカーラー導入
10	ホットカーラー	ホットカーラー反復練習
11	ホットカーラー・逆毛	ホットカーラー反復練習・逆毛導入
12	ホットカーラー・逆毛	ホットカーラー、ビニング、逆毛反復練習
13	スタイル作り③	学んだテクニックを使いスタイルを作る、振り返り
14	テスト	実技テスト
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ヘアアレンジ・スタイリングⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアアレンジ・スタイリングⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	2	45
使用教材	ヘアアレンジ道具一式 ヘアアレンジテキスト		出版社	公益財団法人理容師美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	【ヘアアレンジ】頭部の名称からヘアアレンジの基礎知識・現場での基礎技術を出来る様にする。				
到達目標	【ヘアアレンジ】人にする為の技術・知識と、セルフアップの為の技術・知識と、両方の視点で基礎技術と知識を理解出来るようにする。				
評価基準	・ヘアアレンジ：テスト40% 小テスト30% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	【ヘアアレンジ】美容実習Ⅰ-A・美容技術理論				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	篠原朱美 他1名	実務経験	○		
実務内容	美容師として、トータルサロン・結婚式場での勤務有。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【ヘアアレンジ】

回数	単元	内容
1	後期オリエンテーション シニヨン・土台作り/夜会巻き	シニヨン・土台作り/夜会巻き導入
2	土台の作り方 逆毛の立て方・すき毛の使用	土台(導入・練習) 逆毛・すき毛(導入・練習)
3	夜会巻①	夜会巻(導入・練習)
4	夜会巻②	夜会巻(練習)
5	夜会巻③	本夜会(導入・練習)
6	夜会巻⑤	重ね夜会・本夜会(テスト・振り返り)
7	和装・洋装スタイル①	トレンドから取り入れたスタイル作り(導入・練習) 展開図作成

8	和装・洋装スタイル②	トレンドから取り入れたスタイル作り(練習) 展開図作成
9	和装・洋装スタイル③	トレンドから取り入れたスタイル作り(導入・練習) 展開図作成
10	和装・洋装スタイル④	トレンドから取り入れたスタイル作り(練習) 展開図作成
11	和装・洋装スタイル⑤	トレンドから取り入れたスタイル作り(導入・練習) 展開図作成
12	和装・洋装スタイル⑥	トレンドから取り入れたスタイル作り(練習) 展開図作成
13	和装・洋装スタイル⑦	トレンドから取り入れたスタイル作り(導入・練習) 展開図作成
14	和装・洋装スタイル⑧	トレンドから取り入れたスタイル作り(練習) 展開図作成
15	総合授業	まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	サービス接遇Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	サービス接遇Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科 (3年制)	1	30
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト3級 サービス接遇検定実問題集3級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける				
到達目標	サービス接遇検定3級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。				
評価基準	【評価】テスト50%、課題・提出物20% 授業態度等30%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	サービス接遇検定3級				
関連科目	就職対策				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	峯 江里子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ビジネスマナーとは	授業の目的・到達目標について ビジネスマナーを学ぶ意味を知る
2	サービススタッフの資質	サービス業界で求められているものについて
3	サービススタッフの資質	必要とされる要件の復習・従業要件について
4	専門知識・一般知識	サービス知識、従業知識、一般知識について
5	対人技能 (敬語) ①	様々な接遇用語・敬語について
6	対人技能 (敬語) ②	尊敬語・謙譲語・二重敬語について
7	対人技能 (一般的なマナー)	動作を行う際の基本・ポイントについて

8	対人技能①	人間関係について
9	対人技能②	一般的なマナー・接客者としてのマナーについて
10	対人技能③	話し方について
11	実務技能①	問題処理について
12	実務技能②	環境整備・金品管理について
13	社交業務	社交儀礼の業務について
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	サービス接遇Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	サービス接遇Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科 (3年制)	1	30
使用教材	サービス接遇検定公式テキスト3級 サービス接遇検定実問題集3級		出版社	早稲田教育出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	敬語の使い方や履歴書の書き方、ビジネス文書の書き方など社会人としての考え方、ルールやマナーを身につける				
到達目標	サービス接遇検定3級に合格する。 美容の現場で敬語の使い方ができるようになる。社会人としてのマナーを身につける。				
評価基準	テスト30%、検定試験30%、課題・提出物20%、授業態度20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	サービス接遇検定3級				
関連科目	就職対策				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	峯 江里子	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	検定対策授業	復習と練習問題
2	検定対策授業	復習と練習問題
3	検定対策授業	復習と練習問題
4	検定対策授業	復習と練習問題
5	検定対策授業	復習と練習問題
6	検定対策授業	復習・検定問題の解答・解説

7	履歴書作成①	履歴書とは、履歴書のマナー、履歴書の書き方について
8	履歴書作成②	履歴書作成
9	社交文書 ①	縦書き・横書きレイアウトについて 文書の種類・文書の構成・頭語と結語・時候の挨拶・前文、末文の慣用句
10	社交文書 ②	郵便の基礎知識～宛名の書き方、返信はがき、お礼状、送付状について
11	理想の美容従事者像	お客様から愛され・親しまれる美容従事者について
12	実技演習①「受付～誘導」	受付から誘導のロールプレイング演習
13	実技演習②「面接練習」	面接試験の種類とチェックポイントについて 面接ロールプレイング
14	実技演習③「電話対応」 実技演習④「お茶出し」	電話のかけ方・受け方、伝言メモ、予約電話のシミュレーション
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラー＆ファッションⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラー＆ファッションⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科 (3年制)	1	15
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。				
評価基準	テスト50%、提出物30% 授業態度等20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	行徳 ひろみ	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	パーソナルカラーとは、色の連想	授業の目的・到達目標について パーソナルカラーを学ぶ意味を知る
2	色の心理的効果	色の持つイメージと性質、色の心理的効果について
3	色と光について①	色の見える仕組み、光について
4	色と光について②	眼(視覚)のしくみについて
5	色の特徴について①	無彩色と有彩色、三属性について、色相環の作成
6	色の特徴について②	三属性について、色相環・トーン図の作成

7	色の特徴について③	トーンについて
8	配色（色相、トーン）	配色、色相、トーンについて
9	配色（配色の応用、イメージ配色 他）	配色の応用編について 条件にあった配色をつくる
10	対比と同化	対比と同化について
11	混色・慣用色名	混色の原理・慣用色名について
12	パーソナルカラーの基礎①	パーソナルカラーの基礎について
13	パーソナルカラーの基礎② 復習	各シーズンの特徴について、復習
14	総復習	1～13回までの総復習
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	カラー&ファッションⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	カラー&ファッションⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	新配色カード パーソナルカラーコーディネート検定テキスト パーソナルカラーコーディネート検定課題集		出版社	日本色研事業(株) クリエスクール	

科目の基礎情報②

授業のねらい	色に関する知識、法則、技法を理解する。				
到達目標	パーソナルカラーコーディネート検定に合格する。 美容の現場で色に関して適切な提案ができるようになる。				
評価基準	テスト30%、検定試験30%、提出物20%、授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	パーソナルカラーコーディネート検定				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	行徳 ひろみ	実務経験			
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	アドバイス実践 (ファッション)	ファッションについて
2	アドバイス実践 (ヘアカラー・メイク)	ヘアカラー、メイクについて
3	アドバイス実践 (ネイル・ブライダル)	ネイル、ブライダルについて
4	総復習	検定試験に向けての総復習
5	総復習	復習と練習問題
6	検定対策授業	復習と練習問題

7	検定対策授業	復習と練習問題
8	検定対策授業	復習と練習問題
9	検定対策授業	復習と練習問題
10	検定対策授業	復習と練習問題
11	パーソナルカラーの判定①	パーソナルカラーの判定に必要な知識について
12	パーソナルカラーの判定②	パーソナルカラーの判定に必要な知識・実践について
13	4つのグループの具体化①	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
14	4つのグループの具体化②	パーソナルカラー4つのグループの特徴を理解し、グループを明確にする
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅠ			
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅠ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)		1	15
使用教材	7つの習慣Ⅰテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)			出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分をも身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。 				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	石堂 津多江	実務経験		○	
実務内容	メーカーで美容部員として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なことは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラムⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	未来デザインプログラムⅡ		
開講					
年次	1年	学科	美容科(3年制)	単位数	15
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分をも身につける。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。 				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格	なし				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	石堂 津多江	実務経験	○		
実務内容	メーカーで美容部員として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
2	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
3	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
4	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
5	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを知る
6	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
7	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
8	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
9	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する

10	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
11	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
12	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
13	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
14	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
15	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ヘアケアソムリエⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアケアソムリエⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	シャンプー教材 美容技術理論Ⅰ		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	正しいヘアケア知識を持ち、お客様の髪と頭皮のお悩みに対応できるようになる				
到達目標	シャンプー、ブロー、カラー、ヘアケア剤の成分・効果を深く理解する 一人ひとりの髪質・頭皮状態に合わせたカウンセリングや接客知識を身につける				
評価基準	総まとめ50% まとめ30% 提出物20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【シャンプーイング】

回数	単元	内容
1	授業の説明	業の目的目標、評価基準、授業ルール、毛髪知識
2	毛髪知識	毛髪知識
3	毛髪知識	毛髪知識
4	カウンセリング	シャンプーカウンセリング
5	シャンプー技術	シャンプー技術
6	ハンドブロー	ハンドブロー技術
7	まとめ	まとめテストを実施
8	ヘアケアソムリエ	カリキュラム①～⑥

9	ヘアケアソムリエ	カリキュラム⑦～⑫
10	ヘアケアソムリエ	カリキュラム⑬～⑲
11	新人接客・接遇	サロン接客について①
12	新人接客・接遇	サロン接客について②
13	カラーバイブル①	カラー基礎
14	カラーバイブル②	カラー基礎
15	総まとめ	総まとめテストを実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ヘアケアソムリエⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアケアソムリエⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	シャンプー教材 美容技術理論Ⅰ		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター ユアサポート	

科目の基礎情報②

授業のねらい	正しいヘアケア知識を持ち、お客様の髪と頭皮のお悩みに対応できるようになる				
到達目標	シャンプー、ヘッドスパについての知識と技術が理解できている				
評価基準	総まとめ50% まとめ30% 提出物20%				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目はオンデマンド型遠隔授業形式にて実施する。				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開【シャンプーイング】

回数	単元	内容
1	授業の説明	業の目的目標、評価基準、授業ルール、毛髪知識
2	シャンプー	毛髪知識
3	シャンプー	毛髪知識
4	シャンプー	シャンプーカウンセリング
5	シャンプー	シャンプー技術
6	シャンプー	ハンドブロー技術
7	まとめ	まとめテストを実施
8	シャンプー	カリキュラム①～⑥

9	シャンプー	カリキュラム⑦～⑫
10	シャンプー	カリキュラム⑬～⑲
11	ヘッドスパ	サロン接客について①
12	ヘッドスパ	サロン接客について②
13	ヘッドスパ	カラー基礎
14	ヘッドスパ	カラー基礎
15	総まとめ	総まとめテストを実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スキンケアⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	スキンケアⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	日本化粧品検定2級対策テキスト『コスメの教科書』		出版社	主婦の友社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケア・スキンケア対処方法についてを習得する				
到達目標	スキンケアの基礎知識を深め、化粧品の成分や働きを正しく理解する				
評価基準	テスト50%、提出物30% 授業意欲20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	日本化粧品検定2級・準2級・3級(任意受験)				
関連科目	基礎知識Ⅰ-A(美容技術理論)、基礎知識Ⅰ-B(文化論)、基礎知識Ⅰ-E(化粧品化学)、基礎知識Ⅰ-F(美容保健)				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	行徳 ひろみ	実務経験		○	
実務内容	百貨店にて化粧品ブランドの美容部員として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 化粧品検定について	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 日本化粧品検定についての詳細説明
2	化粧品検定3級対策① 間違いがちなスキンケア	間違いがちなクレンジング～スキンケアの素朴な疑問 まで
3	化粧品検定3級対策② 間違いがちなUVケア・メイクアップ	間違いがちなUVケア～間違いがちなポイントメイクアップ まで
4	化粧品検定3級対策③ 間違いがちなボディケア・ヘアネイルデ ンタルケア	間違いがちなボディケア～間違いがちなデンタルケア まで
5	中間テスト	まとめを実施する
6	解説	テストの振り返り・解説
7	化粧品検定準2級対策① スキンケアの基本①	クレンジング・洗顔の基本
8	化粧品検定準2級対策② スキンケアの基本②	化粧水、乳液・クリームの基本 スペシャルケアの基本

9	化粧品検定準2級対策③ UVケアの基本	UVケアの基本
10	化粧品検定準2級対策④ メイクアップの基本①	ベースメイクアップの基本
11	化粧品検定準2級対策⑤ メイクアップの基本②	ポイントメイクアップの基本
12	化粧品検定準2級対策⑥ ボディケア、ハンドケアの基本	ボディケアの基本 ハンドケアの基本
13	化粧品検定準2級対策⑦ ヘアケアの基本、ネイルケアの基本	ヘアケアの基本 ネイルケアの基本
14	期末テスト	まとめを実施する
15	解説・総合授業	テスト内容の解説を行う まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	スキンケアⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	スキンケアⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15
使用教材	日本化粧品検定2級対策テキスト『コスメの教科書』		出版社	主婦の友社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	スキンケア・スキンケア対処方法についてを習得する				
到達目標	スキンケアの基礎知識を深め、化粧品の成分や働きを正しく理解する				
評価基準	テスト50%、提出物30% 授業意欲20%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	日本化粧品検定2級・準2級・3級(任意受験)				
関連科目	基礎知識Ⅰ-A(美容技術理論)、基礎知識Ⅰ-B(文化論)、基礎知識Ⅰ-E(化粧品化学)、基礎知識Ⅰ-F(美容保健)				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	行徳 ひろみ	実務経験		○	
実務内容	百貨店にて化粧品ブランドの美容部員として勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 化粧品検定2級について	授業の目的目標、評価基準、授業ルール 日本化粧品検定についての詳細説明
2	化粧品検定2級対策① 皮膚と構造の仕組み①	part1. 皮膚の構造 皮膚表面の構造～皮膚がもつバリア機能
3	化粧品検定2級対策② 皮膚と構造の仕組み②	part1. 皮膚の構造 真皮の構造としくみ～ part2. 皮膚の作用
4	化粧品検定2級対策③ 肌タイプの見分け方とお手入れ	part2. 肌タイプの見分け方とお手入れ方法 肌タイプと見分け方
5	化粧品検定2級対策④ 肌悩みの原因とお手入れ①	part3. 肌悩みの原因とお手入れ 1. 乾燥 ～ 4. 毛穴
6	化粧品検定2級対策⑤ 肌悩みの原因とお手入れ②	part3. 肌悩みの原因とお手入れ 5. シミ ～ 8. シワ・たるみ
7	中間テスト	まとめを実施する
8	解説	テストの振り返り・解説

9	化粧品検定2級対策⑦ 骨格に合わせたメイクアップ	part 4. 骨格に合わせたメイクアップ
10	化粧品検定2級対策⑧ 肌を劣化させる要因①	part 5. 肌を劣化させる要因 1. 外的要因 3. 外的要因+内的要因
11	化粧品検定2級対策⑨ 肌を劣化させる要因②	part 5. 肌を劣化させる要因 2. 内的要因
12	化粧品検定2級対策⑩ 生活習慣美容	part 6. 生活習慣美容
13	化粧品検定2級対策⑪ 筋肉・ツボ・リンパ	part 7. 筋肉・ツボ・リンパ
14	期末テスト	まとめを実施する
15	解説・総合授業	テスト内容の解説を行う まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	企業研究Ⅰ			
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15	
使用教材	ノート・筆記用具		出版社	なし		

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業界および企業の特性を理解し、自身の価値観や将来像に基づいて、適切な進路選択ができる力を養う				
到達目標	美容業界における企業の特性を把握し、志望理由を明確にした進路選択ができる				
評価基準	テスト：50% 授業態度：50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究の基礎理解	美容業界全体の概要と、企業研究を行う目的・意義を理解する
2	美容業界の構造理解	サロン、美容メーカー、ディーラーなど業界の構造と役割を学ぶ
3	美容企業の種類	大手・中小・個人サロンの特徴や違いを理解する
4	企業理念の理解	企業理念・ビジョンの重要性と、その読み取り方を学ぶ
5	教育制度とキャリア	研修制度、キャリアパス、成長ステップについて理解する
6	労働条件と待遇	給与、勤務時間、休日、福利厚生などの見方を学ぶ
7	企業研究の方法	企業HP、SNS、口コミなど情報収集の方法を学ぶ
8	サロン見学	サロン見学時のチェックポイントと質問の仕方を学ぶ
9	実務理解	現役美容師の話を聞き、仕事の実際を理解する

10	企業比較	複数企業を比較し、自分に合う企業の考え方を学ぶ
11	自己分析	自身の強み・価値観・働き方の希望を整理する
12	志望企業選定	志望企業を絞り込み、選定理由を明確にする
13	企業研究発表準備	企業研究内容を整理し、発表資料を作成する
14	企業研究発表	調査した企業について発表を行い、理解を深める
15	振り返りとまとめ	企業研究を就職活動にどう活かすかを整理する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プロフェッショナルワークスⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロフェッショナルワークスⅠ		
		開講	単位数	時間数	
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	30
使用教材	ノート・筆記用具		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容業界で働くうえで求められる社会人基礎力や職業意識を身につけ、プロフェッショナルとして適切に行動できる基礎を養う。				
到達目標	社会人として必要なマナーやコミュニケーション力を理解し、職場において適切な行動を実践できる				
評価基準	テスト：50% 授業態度：50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	科目の目的と学び方を理解する
2	社会人基礎	社会人としての心構え
3	職業観	美容業界におけるプロ意識
4	身だしなみ	第一印象と外見管理
5	挨拶・礼儀	基本的な挨拶と礼儀作法
6	言葉遣い	敬語・接客用語
7	接客基礎	接客の基本姿勢
8	接客応用	顧客満足を高める対応
9	コミュニケーション基礎	聞く力・伝える力

10	報連相	報告・連絡・相談
11	チームワーク	職場での協働
12	時間管理	時間・スケジュール管理
13	マナー応用	職場シーン別マナー
14	電話対応	電話の受け方・かけ方
15	クレーム基礎	クレームの捉え方
16	クレーム応用	実践的クレーム対応
17	安全衛生	職場の安全と衛生管理
18	コンプライアンス	法令・規則の基礎
19	情報リテラシー	SNS・情報管理
20	自己管理	健康管理とストレス対処
21	目標設定	短期・長期目標
22	キャリア形成	将来設計の考え方
23	職場理解	サロン・職場の役割
24	顧客理解	顧客ニーズの把握
25	リーダーシップ	主体的行動
26	問題解決	課題発見と解決
27	振り返り①	これまでの学習整理
28	実践演習	総合ロールプレイ
29	振り返り②	実践後の振り返り
30	まとめ	プロとしての姿勢整理

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	ヘアメイクアシスタント演習Ⅰ			
必修選択	選択	(学則表記)	ヘアメイクアシスタント演習Ⅰ			
開講					単位数	時間数
年次	1年	学科	美容科(3年制)	1	15	
使用教材	ノート・筆記用具		出版社	なし		

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容室等の実習現場において、ヘアメイクアシスタントとして求められる基本的な姿勢・行動・補助業務を体験的に学び、就業に必要な実践的基礎力を養う。				
到達目標	実習先の業務内容やルールを理解し、ヘアメイクアシスタントとして必要な補助業務および基本的な行動を、指示のもと適切に実践できる。				
評価基準	テスト：50% 授業態度：50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習オリエンテーション	実習先での心構え・ルール・安全管理の確認
2	職場理解	実習先美容室の業務内容・役割理解
3	衛生管理（現場）	実習先での衛生・消毒方法
4	準備・後片付け	開店準備・片付け・清掃業務
5	用具管理	道具準備・管理・補充
6	シャンプー補助（見学）	シャンプー業務の流れ理解
7	シャンプー補助（実践）	声掛け・補助動作
8	ブロー・仕上げ補助	ブロー・セット補助業務
9	カラー・パーマ準備	薬剤準備・タイミング理解

10	接客対応補助	来店時対応・案内・クローク
11	コミュニケーション	スタッフ間の報連相
12	現場対応力	忙しい時間帯での立ち回り
13	プロ意識	実習先で求められる姿勢
14	総合実習	アシスタント補助の通し実践
15	まとめ	実習全体の振り返りと課題整理

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	コンテスト対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテスト対策Ⅰ		
開講					
年次	1年	学科	美容科(3年制)	単位数	15
使用教材	ノート・筆記用具		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容コンテストの趣旨や評価基準を理解し、テーマに基づいた作品制作を通して、技術力および表現力の基礎を高めるとともに、計画的に作品を完成させる力を養う。				
到達目標	コンテストのテーマや評価基準を踏まえ、自身のデザイン意図を反映した作品を、制限時間内に安定して制作することができる。				
評価基準	テスト：50% 授業態度：50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上あるもの 成績評価が2以上のもの				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	国内外の美容室でスタイリスト兼人事担当を歴任。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	コンテストの目的・評価基準の理解
2	コンテスト概要理解	競技種目・テーマ分析
3	作品分析	過去受賞作品の研究
4	テーマ解釈	テーマの読み取り方
5	デザイン構成	ヘアデザイン構成
6	技術確認	必要技術の整理
7	基本技術練習	基礎技術反復
8	時間配分	制限時間内の作業計画
9	試作①	作品制作実習

10	試作②	完成度向上
11	表現力強化	ディテール調整
12	最終調整	完成形の確立
13	模擬コンテスト	本番形式での通し
14	最終確認	技術・表現最終確認
15	まとめ	振り返りと次回課題

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実技	科目名	着付け		
必修選択	選択	(学則表記)	着付け		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	美容科(3年制)	1	30
使用教材	教本・お太鼓枕・帯板・伊達締め(2)・腰ベルト・腰ひも(4)・和装スリッパ(下着)・クリップ(2)・足袋		出版社	桜花出版 KW	

科目の基礎情報②

授業のねらい	着付に関する知識・技術を身につける。				
到達目標	着付に関する技術の習得や付随する知識を蓄えることにより、今後の接客へ役立てることが出来る。 技術の習得目安として、 ・きもの着付け3級(6月強制受験 免許強制) ・きもの着付け2級(12月強制受験 免許任意)				
評価基準	検定試験：40% テスト：30% 授業態度：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	一般社団法人日本きもの文化連絡協議会もしくは、一般財団法人京都きもの伝承文化協会 きもの着付け資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	原 真理子 他3名	実務経験		○	
実務内容	ヘアサロン、ブライダルサロンにて15年以上の現場経験有。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、授業ルールについて、到達目標について、教材小物の説明・記名、考査票の記入、足袋サイズの確認
2	小紋の着せ方1	補整、長襦袢の着せ方、たたみ方を学び実践する
3	小紋の着せ方2	小紋の着付(裾線、衿合せ)、たたみ方を学び実践する
4	小紋の着せ方3	小紋の着付(お端折の作り方)を学び実践する
5	小紋の着せ方4	半幅帯(蝶結び)の結び方を学び実践する 小テスト(着物の名称)を実施する
6	小紋の着せ方5	小紋の着付を仕上げる(検定対策)

7	小紋の着せ方6	小紋の着付を仕上げる（検定対策）
8	小紋の着せ方7	小紋の着付を仕上げる（検定対策）
9	検定向上会	総仕上げ、検定試験の流れについて
10	検定試験	着付け3級検定（小紋の着付と蝶結び（20分））を実施する
11	座学1	着物の名称と用語（プリント①②）を学ぶ 試験結果を通知する
12	浴衣の着方・着せ方	浴衣の着方（自装）と着せ方、半幅帯バリエーションを学び実践する たたみ方テストを実施する
13	座学2	着物のTPO（プリント③④）を学ぶ
14	小紋と名古屋帯	お太鼓結びでの普段着（小紋）着付を学び実践する
15	総合学習	小紋の着付（お太鼓結び）と総まとめを行う
16	振袖の着せ方1	授業の流れ、到達目標について説明する、考查票の記入 補整、長襦袢の着せ方、振袖の着せ方、たたみ方について学び実践する
17	振袖の着せ方2	袋帯について、ふくら雀の結び方について学び実践する
18	振袖の着せ方3	袋帯について、ふくら雀の結び方について学び実践する
19	振袖の着せ方4	振袖の着付を仕上げる（検定対策）
20	振袖の着せ方5	振袖の着付を仕上げる（検定対策）
21	振袖の着せ方6	振袖の着付を仕上げる（検定対策）
22	振袖の着せ方7	振袖の着付を仕上げる（検定対策）
23	振袖の着せ方8	振袖の着付を仕上げる（検定対策）
24	検定向上会	総仕上げ、検定試験の流れについて
25	検定試験	きもの着付け2級検定試験（振袖にふくら雀30分）を実施する
26	留袖の着せ方1	留袖について、留袖の着せ方について学び実践する たたみ方について

27	留袖の着せ方2	二重太鼓の結び方について学び実践する 留袖の仕上げ
28	紋服の着せ方	紋服について、紋服の着せ方について学び実践する たたみ方について
29	女袴の着せ方	女袴の着せ方について学び実践する
30	総合学習	国家試験対策として総まとめのテストを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	外部研修Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	外部研修Ⅰ		
年次	1年	学科	美容科(3年制)	単位数	時間数
				1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②

授業のねらい	美容室として現場で求められる資質や運営方法を具体的に理解する。				
到達目標	<p>社会人としてマナーや敬語を使用することができる。</p> <p>スタッフ間のスムーズな報告連絡相談を行うことができる。</p>				
評価基準	企業側評価60% 学校側評価40% (ビジネスマナー20%・各コース該当項目20%)				
認定条件	<ul style="list-style-type: none"> ・出席が48単位時間以上(実質時間数40時間以上)の者 ・成績評価が2以上の者 				
関連資格					
関連科目	就職対策Ⅰ・ビジネスマナー				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	石川百有 他5名	実務経験	○		
実務内容	美容業務、人事にも携わった経歴を活かし、美容技術を教授する。				